

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590400248		
法人名	株式会社 エーアイエム		
事業所名	グループホーム 縁ゆくり		
所在地	秋田県大館市字桜町35		
自己評価作成日	平成28年12月17日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域で生活をするという点を重視し、地域の行事への参加や見学、地域の行事に合わせた活動を施設内で取り入れるようにしています。季節の行事や食事も積極的に取り入れ、五感で季節を感じることができるように配慮しています。利用者の方々が行きたい場所やしたいこと等をお聞きし、可能な範囲の中で外出や活動として取り入れるように取り組んでいます。
また、提携医療機関が同一敷地内にあることで、普段の利用者の方々の様子についての情報共有をスムーズに行うことができ、利用者の方々の医療的なケアを手厚く行うことができていると考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年1月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に位置し、近隣には、図書館や文化会館、公民館など公共施設があり、生活を豊かにしている。また、事業所内は装飾や、外出の機会も多く、折々に季節を感じることができる。利用者の思いに寄り添い、家族の協力を得ながら利用者本位、個別支援、自立支援を心掛け対応している。同一敷地内の医師の往診により、日々利用者の状態把握を行い、利用者は気軽に相談できる環境にあり、安心して過ごすことができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	感謝・まごころ・笑顔の理念を大切にし、利用者の方々がその人らしさや安心した生活を送ることができるように職員一同、取り組んでいます。	管理者、施設長、ケアマネが実践者研修の中で、学びながら共に感じた利用者への思い『感謝・まごころ・笑顔』を理念とし、玄関に掲げている。戦争を体験し、貧しい時代から今を作り上げてくれた、また、この施設を選んできたことに対しての『感謝』、だからこそ『まごころ』をこめて接したい、そして『笑顔』はみんなを気持ちよくする。職員全員が共感し、日々実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際に近隣の方々へも参加の声掛けを行いました。参加された方はいらっしゃいませんでした。また、近くのお店への買い物や散歩の際に挨拶を行っています。近くのお店から十五夜の頃には花のプレゼントをいただきました。	近隣の公共施設への散歩や、地域のお祭りなど積極的に参加されている。施設の新聞を近所の人々に配るなど地域とのつながりを持った暮らしの継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	グループホーム便りにて認知症に関する情報等の提供を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際には現状と翌月以降の予定についてお伝えし、ご意見をいただいています。また、それぞれのお立場からいただいた意見を取り入れています。	行政、包括、家族など多角的な視点からの意見交換を行い、利用者の生活向上につなげている。ビデオや写真で施設の様子を見ていただき、具体的な課題の検討を行っている。参加できなかった委員にも、報告し、つながりを持っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場だけでなく、市役所の担当部署に電話や訪問による情報共有や相談を行うようにしています。	市福祉課職員や包括の職員が運営推進会議の委員として参加し情報交換をしているほか、施設の運営、利用者の小さなことでも相談できる関係であり、連絡や行き来をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を開け、自由に入出入りすることができる環境を整えています。各居室にも内側からの鍵のみで、外から鍵はかけられないようになっています。	昼間は玄関を施錠せずに開放しており、利用者が外に出そうな素振りがあるときは、寄り添い、さりげない声掛けや一緒についていくなど、利用者の安全を確保しながら抑圧無く見守りをするように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する情報の提供、外部研修の情報提供を行っています。外部研修の中で高齢者虐待について学び、情報の共有も行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では成年後見制度等を利用されていらっしゃる方はいません。成年後見制度等の知識の共有を行っていききたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結等の際には書類を用意し、口頭での説明も行い、同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際に利用者の方々の様子をお伝えし、ご家族のお話をうかがうようにしています。また、利用者の方々のお話しもうかがい、ご希望に添えるように取り組んでいます。	苦情箱を設置している。家族の面会時など、積極的に様子などを伝え、相談・要望など引き出す努力をし、話し合える関係づくりをしている。	家族の言い出しにくさや配慮があることを理解し、意見を出しやすいように工夫をすることで、潜在的な意向を把握し反映するしきみを整えることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事等の後には振り返りを行い、その場で出た意見を次回以降に反映させるようにしています。また、スタッフ会議を定期的に行い、それぞれの意見を出し合うようにしています。	職員一人ひとりと話しをする機会があり、仕事のみならず家族、体調など何でも話せる関係にある。サービスの提供に関して、実践者研修の取り組みから、全員で意見を出し合いながら共有、展開している実績があり、日々のサービスに波及効果をもたらしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇改善加算にて処遇の改善に努めています。各職員の経験に応じて、外部研修の機会を提供し、キャリアアップを応援しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務としての外部研修を予定したり、内部研修として医療関係者による研修を行っています。また、外部研修もスタッフ会議での情報共有や紙面による情報共有を行い、研鑽を積める環境の提供を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ認知症対応型共同生活介護を運営する事業所を訪問し、お話をうかがうことができました。また、包括支援センターや居宅介護支援事業所との連携、医療・福祉機関との連携を行っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人のお話をうかがい、入居直後は特に配慮し、注意して様子をうかがい、お話をうかがうようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族からの話を丁寧にうかがう機会を持ち、入居前からの関係づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方々の得意な家事をお願いし、掃除や料理、洗濯物干し等の協力をいただきながら生活を営んでいます。 行事の際にはきりたんぼやおにぎり等を作っていただき、共に取り組むことを大切にしています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月、利用者の方々の様子をお伝えし、利用者の方々の生活を支えるために一緒に協力をしています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に買い物をされていた市での買い物、地元の行事の参加・見学等を行っています。 友人や親戚の方々の訪問を歓迎し、入居前の関係性を尊重し、対応させていただいています。	市日やスーパー、美容院などこれまでの生活の継続ができるよう支援している。地域の祭りなど積極的に参加し、昔を振り返り懐かしんだり、地域との接点を持ち、地域での生活の継続を図っている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用される方々の心情に配慮し座席や環境を整え、交流がしやすい環境づくりができるよう取り組んでいます。時には職員が間に入ることで、スムーズな交流が図れるように取り組むこともあります。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退去等の際にもご家族や地域包括支援センター等と連絡をとりあい、その後のご本人のためにできる限り取り組ませていただいています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用されている方々のお話をうかがいながら、活動を組み立てています。また、折に触れ、行きたい場所やしたいこと等をうかがい、可能な範囲の中でご希望に添えるように取り組んでいます。	パーソナリティや疾病、またその日の状態から言葉の意味や思いを汲み取り、利用者一人ひとりの思いの把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活や暮らしについてお聞きし、それまでの利用者の方々の暮らしに思いをはせ、日々の生活や活動に取り入れられるよう取り組んでいます。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りを通しての理解、介護記録を通して職員間での状況の共有を行い、一人ひとりの利用者の方々の状況把握に努めています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	折に触れご家族や利用者の方々からご希望等をうかがい、介護計画については説明と同意を得るように努めています。	家族や利用者、また現場の職員の意見を反映し、介護計画を作成している。要望や変化に応じて見直しをしている。	記録は情報の共有に不可欠です。記録や職員の意見、本人・家族の意向を反映させながら、アセスメント、モニタリング、評価を丁寧にする事で、より一人ひとりの現状に即した介護計画につながります。また、記録、基本情報、介護記録などプライバシーに配慮しながら、職員がいつでも閲覧しやすい環境の整備を図ることで、方向性が明確になることに期待したい。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子についての介護記録を作成し、職員間で情報共有を行っています。情報共有をベースとして、環境の整備等もしながら、介護計画の見直しを行っています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や見学、近所のお店や公共施設への見学を行い、文化に触れる機会があります。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局との連携は密に行い、利用者の方々の情報提供を行い、実際の生活での助言をうけています。連携を密に行い、いつでも相談できる体制を構築しています。	家族の希望や専門的な治療については、それまでのかかりつけ医を受診することができ、事業所でも対応している。同一敷地内の医師も事業所の経営に関わっており、日々往診、また利用者の状態把握を行っている。利用者は気軽に相談できる環境にあり、安心して過ごすことができる。夜間も医師から指示を受けることができ、速やかな対応が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から看護師との情報交換を行っています。また、年に1度は看護師を講師とした感染性疾患等の研修を行っています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には病院を訪問し、病院関係者との情報交換を行い、連携を行いました。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化の際の対応について書面と口頭で説明をしています。	医療連携など、現状での事業所の課題を把握し、現段階の可能な対応について、口頭や書面にて家族、利用者に説明し、了承を得ている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修や緊急時の対応についてのマニュアルを作成しています。緊急時の対応についてはすぐに目に入る場所に掲示しています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しています。避難訓練の際には課題を見つけ、課題に取り組んでいけるよう意識しています。地域の方々にもお声掛けをし、地域と協力した避難訓練を計画しましたが、参加ありませんでした。	マニュアルが整備され、年2回利用者と共に火災や地震想定など、避難訓練を実施している。消防署の協力を経て、避難経路の指導や消化器の使い方など、実効的、実践的な訓練となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方々の尊厳を大切にし、利用者の方々に合わせた適切な対応をさせていただいています。	一人ひとりの生活背景を考え、その人らしい尊厳を保てるよう、敬意を払い、感謝の気持ちを言葉にしている。立場を置き換え、誇りやプライバシーを具体的に確認し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	折に触れ利用者の方々に行きたい場所やしたいことを伺い、可能な限り対応をさせていただいています。また、行事等でもご意見をうかがいながら内容を変更したりと対応しています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の方々へのペースや望まれる過ごし方に応じた支援を行っています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の方々のおしゃれや身だしなみの支援を行っています。外出の際には外出の声掛けをし、季節に合わせた服装やおしゃれに気付けた服装を選ばれるよう支援をしています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳については常に協力いただいています。料理に関しては、折に触れご協力いただき、野菜のカット、みずの皮むき、みず叩き等の料理を作っていただいたりしています。	敷地内にも小さな畑があり、植ええや草取りなどをして、自分達が作った野菜が食卓に並ぶこともある。利用者の希望を献立に反映させたり、季節を感じる食事など楽しみが得られる。配膳する人、他利用者に声を掛ける人など、食事を通しての一人ひとりの力が確認できた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量について毎回記録し、常に確認を行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の方々に合わせて、声掛け、見守り、一部介助等による口腔内のケアに努めています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の方々の状況に応じて自立に向けた支援に取り組んでいます。利用者の方によっては排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう声掛けを行っています。	排泄の間隔があいていれば何気なく声掛けをしている。体調により援助内容を変えて失敗しないよう、また介助時はタオルを掛けるなどの配慮をしている。他者の目を気にされ、日中はポータブルトイレを部屋に置くのを嫌がる方には、夜間のみ部屋に設置するなど配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事を心がけ、運動・体操も行っていきます。また、排泄について利用者の方々の状況を把握し、予防に努めています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの温度や体調に合わせて入浴の順番を入れ替えるようにしています。また、ご家族とのおでかけ等がある際に、優先的に入浴をしていただくこともあります。	基本的に入浴日は決まっているが、状況に合わせた対応も可能である。利用者の満足を重視している。笑顔やいつもと違う表情が見られ、ゆっくり会話を楽しまれ、くつろぎの一時となっている。浴室には手すりが多く設置され、利用者の体格や状況により使用することで安全に入浴できる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬季の間は入眠前に電気あんかを利用したり、温かい環境に配慮し、安眠することができるよう取り組んでいます。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師との連携を密に行っています。薬の変更等があった際には様子を伝えたり、薬の効果、副作用についての情報をいただいています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事をしていた利用者の方には畑での野菜の種まき、水やり等を行っています。また、市への買い物等、利用者の方々からのご希望にできるだけ沿うことができるよう取り組んでいます。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣にある図書館や文化会館等への散歩を行っています。また、地域のお祭り等では利用者の方々の意向を尊重しながらも、全員で見学に行きました。	近所の公共施設に散歩に出掛けられ、催し物など楽しむ機会がある。花見、銀杏拾い、鮎の千本焼、秋祭り等々季節を楽しむことができる。日用品や衣類の購入など買い物の声掛けを随時行っている。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理される方、施設で預らせていただいている方がいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望がある際には、ご家族からの同意をいただいた方へ電話をしていただいたりと対応させていただいています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ等の場所については視覚的にも分かりやすいように配慮をしています。また、掲示物等でも季節を感じることができるよう取り組んでいます。また、においや温度等も過ごしやすい様子を気をつけて対応しています。	テーブルの椅子席はほとんど固定化されており、共有空間であるが、落ち着いて過ごせる一人ひとりの場所がある。立ち上がり時の転倒や、シルバーカー同士の接触などリスクを共有しながら、自分なりに活動できるよう配慮している。迷わないように居室の入口に名前を掲げ、トイレなどわかりやすく表示している。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際に利用するテーブルの他にソファと机を用意し、一人でも、複数でも過ごせるような居場所を用意しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方々がご自宅で利用されていた家具等をご持参いただき、使い慣れたものをご利用いただいています。	ベッド、カーテン、洗面台以外は自宅から持ち込まれ、家族の協力のもと、それまでの生活を意識して部屋作りをしている。また、コールを設置しており、体調不良時など利用者が不安なく過ごせる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	視覚的な情報も活用しつつ、利用者の方々が安全に生活できるよう配慮しています。		